

企業名： 日本ハム

レポート名： 日本ハムの戦略を読み取る

1. この会社が目指す姿が理解できるか

日本ハム（以下ニッポンハム）の統合報告書には「価値創造ストーリー」という大見出しのもとに、「ニッポンハムグループが目指す姿」という項目がある。その項目においてニッポンハムは「Nipponham Group Vision 2030」を打ち出している。この目標はニッポンハムグループが「日本最大級のたんぱく質供給グループ」として環境及び社会に配慮した安定供給を目指すことを示している。その目標を達成するために中期経営計画を設定している。図1はその概要をまとめたものだ。（一部統合報告書から抜粋）ニッポンハムは国内の食品会社でも名の知れた会社であり、球団を保有していることもその一因であろう。多角的な展開を行うことで、長期的な目標を達成しようとしていることは明白だ。特にDXへの投資を継続して行うことで2030年にDX事業が黒字になることを見込んでいる。これは新たな事業価値、社会的価値の創出につながっている。以上のことから、ニッポンハムの目指す姿は理解できる。

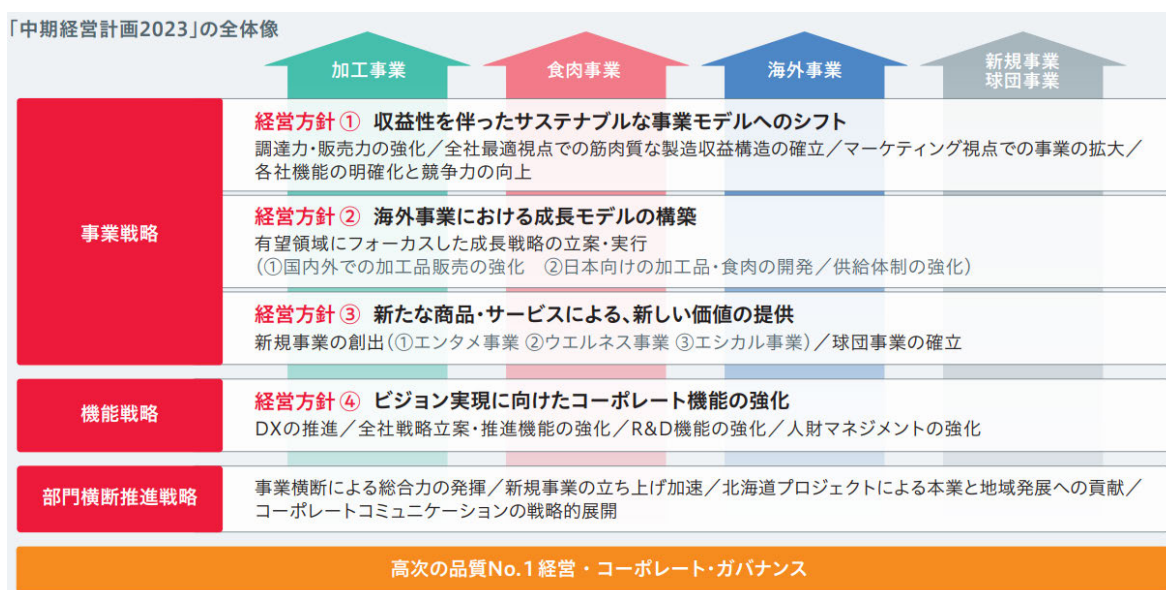


図1

2. この会社の競争優位性が理解できるか

ニッポンハムの競争優位性は大いに理解できる。第一に主力商品の「シャウエッセン」は多客に親しまれている。日経POS情報が発表する平成に最も売り上げを伸ばした商品送られる平成の「日経POSセレクション」にすべての商品の中から「シャウエッセン」を選ん

だ[1]。また、ニッポンハムグループは国内食肉業界1位、世界でも8位のシェアを誇っており[2]、多角的な事業拡大はそれを支えている。また、DXへの投資は競争優位性の確保のため現代求められる投資である。この投資を早期に行い2030年には黒字に転じることは競争優位性の確保にとっても有効である。これらの事実は統合報告書にも記載されており、ニッポンハムの競争優位性が見て取れる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

ニッポンハムは事業の多角化を行っており、倒産のリスクは限りなく低い。また一定の知名度も持っており、特にプロ野球球団を保有していることは今後知名度においても急激に低下する恐れはないと考えられる。これはほかの食肉メーカーにはない広告効果であり、さらに球団からの利益もあるためとても良い事業である。さらにDX部門への投資も行っており、今後成長が見込まれる。これらの情報は統合報告書にそれぞれ小見出しで特集されているものがあり、読者も理解しやすいものとなっている。よって競争優位性に持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ニッポンハムは海外事業も広く展開しており、海外事業部に配属されれば海外事業者との交渉を通じて、英語能力の向上や交渉スキルの向上が期待できる。また、国内事業部でも国内最大手の食肉メーカーとして他の企業との交渉を通じて能力向上が期待できる。また新たな投資分野への投資を行っているため、その分野への知識が深まる。これらのことは自分の人的価値向上につながると考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

ニッポンハムの今回の統計報告書は全体的にイラストや図表を用いており、とても見やすいものとなっていた。また、企業の目標とそこまでのプロセスを細分化して、中期目標を立てていたことから、読者にもわかりやすいものとなっていた。改善余地はほとんどないが、情報量がかなり多く、読み切るためにはかなりの時間と労力を要するため、できるだけ情報を取捨選択して掲載すべきであると感じた。また、自社の強みや他社に対する有利性をシェアや売上高を用いて主張することもよいかもしれない。

6. 参考資料

[1]日経 POS 情報 HP <https://nkpos.nikkei.co.jp/> 最終閲覧日 2022 年 7 月 20 日 2 : 00

[2]ニッポンハムグループ採用サイト <https://www.nipponham.co.jp/recruit/point/>

最終閲覧日 2022 年 7 月 20 日 2 : 50

[3]ニッポンハムグループ統合報告書